



Hino Advancement Center Newsletter

日野振興センターだより

令和3年3月発行 no.32

INCINN

【特集】

座談会

持続可能な日野郡を拓く

日南トクトの現在

～産地を支える若手生産者～

坪倉富草さんのコシヒカリが最優秀賞!

～日野川源流米コソテアト～

トローソが配備されました トローソってすごいんだろ～ん

林業の成長産業化で、日野郡の森林を元気に!

～高機能木質材料の生産開始～

◎結果発表 日野川フォトコソテアト2020

日野郡で輝く人

野分の会会長 長谷川 千明さん

河川・道路ボランティアの皆さんを応援します!

身近になってきている「クマ」のはなし

鳥取県





# 座談会 持続可能な日野郡を拓く

自然環境に恵まれた日野郡。全国的な人口減少社会の中で、将来的ビジョンと情熱を胸に、持続可能な地域実現のため活動を行っている3名の方にお集まりいただき、座談会を開催しました。

新しい日野郡を拓くヒントを一緒に見つけてみませんか。



日野町 青年農業者 遠藤 和也さん  
奥大山地美恵 副会長 宇田川 保さん  
ホームランド多里 専務理事 福原 伴美さん  
日野振興センター 日野振興局長 八幡 徳弘

## あいさつ

本日、日野郡が、高齢になっても誰もが安心して生活でき、若者にとっても魅力に溢れた地域になればよいとの強い思いを持って、日野郡で活躍されている皆さんが集まっていたいただきました。この座談会を通して、日野郡の皆さんに元気をお届けできればよいなと思っています。

## 1 自己紹介、これまでの活動

【八幡】まず、自己紹介を兼ねて、これまでの活動についてお話しいただきたいと思っています。

奥大山地美恵  
副会長 宇田川 保さん

### 世界のジビエで地域貢献！

日野産高を卒業後、食品会社で47年間勤務、その間世界各国を回りました。定年後、日野町の農業委員を務める中、有害鳥獣被害に困っている農業者を助けようと、奥大山地美恵を設立しました。ジビエなら、長年培った技術を活かして、農地を守り、町の振興にもなると考えたからです。

今日は、地元スーパーで販売中の、ジビエのロッケをお持ちしました。奥大山地美恵で解体したイノシシとシカのミンチが使われていますので、ぜひ味わってみてください。

## ホームランド多里

専務理事 福原 伴美さん

多里の皆さんから頼りにされています！ジビエのロッケは、臭みもなく、深い味わいですね。

私は、日南町森林組合に37年ほど勤務し、現在はホームランド多里で専務理事として、レストランでの接客、農産物の販売、経理、税務など多くの業務を担当しています。ホームランド多里は、地域の女性6名で運営しています。人口減少に伴い、レストランの利用者が減少、以前ほど収益が上がらないのが悩みです。

町内は知り合いが多いためか、雪かきなど様々な頼まれごとへの対応にも追われ、多忙な毎日です。

日野町  
青年農業者 遠藤 和也さん

### 青パパイアで日野町を賑やかに！

日野産高卒業後、建設業を経て、就農3年目です。周りの農家がほとんどいなくなり、この土地は誰が守っていくのかと考えるようになりました。白ネギ、ブロッコリー、水稻の栽培をするうちに農業が一番楽しいと感じるようになり、本格的な就農を決意しました。



## 最近、栽培の時間が少なく且つ格好いいものはないかと探し、青パパイアの栽培を始めました。青パパイアを新たな特産品にするため、関係機関と協力して計画を進めているところです。地元で根付く活動をやっていきたいと思っています。

## 2 将来やってみたいこと

【八幡】次に、将来の目標、それを通じ地域にどのような刺激を与えたいか伺います。

【宇田川】  
後継者を育て、古民家でジビエ！

定年後、日野町へ恩返しするために取組んでいるジビエですが、週末を中心に17名のメンバーがボランティアで協力してくれています。また、福祉施設などには、無償でジビエを提供することもあります。

将来は、奥大山地美恵を後継者に引き継ぎ、大山を望む古民家で、地元の野菜やジビエの料理を提供したいという夢があります。20年後を見据え、行政と協力し地域を守っていかなければいけません。地美恵を安心して任せられる後継者が重要です。

【福原】  
お年寄りが安心して暮らせるシニアハウスを作りたい！

多里では高齢の一人暮らしの方が多く、一日一食だけでもバランスのとれた食事をしてほしいとの思いから、ホームランド多里でお弁当の配達サービスを行っています。しかし、地域から

ます人が減っていくという現実を見据えると、配達サービスや雪かきなどの支援も展望が見えづらく、一人暮らしが困難になる状況が予測できます。将来的には多里に高齢者用のシェアハウスを建て、雪深い冬の間は一緒に暮らし、一室に集まって食事をしたり、ホームランド多里から弁当を配達してもらい、そのようなことも考えないといけない時期にきています。

ホームランド多里は地域に必要と言ってもらっていますが、厳しい経営が続いています。後継者確保、存続のために、皆さんにもっと利用していただき、よりよい経営体質にしていきたいです。とにかく目の前のことが多忙すぎて、先々の戦略を立てる時間がないのが悩みです。



【遠藤】  
自分が先駆者になって、次に続く人材を育成したい！

農業を始める際にサポートがあまりなく、苦勞した経験から、次に続く人のため道筋をつけていきたいと考えています。補助金制度も町によってまちまちで、郡内でも制度のある町に若い人が集まってきます。意欲のある人に魅力を感じてもらえるよう、自分が

## 3 地域の将来像

先駆者にならないといけないと思っています。

青パパイアの栽培はその二環です。米養価が高く、台湾料理、カレーなどの料理に使われ、石鹸も作れます。地域の「道の駅」などに置いて、町の賑わいを生み出すことが目標です。

【八幡】最後に、この地域の将来ビジョンや、その中で果たしたい役割をお聞きたいと思っています。

【宇田川】  
子どもたちと故郷を食で繋ぐ！

日野小・中の子どもたちに、美味しいジビエを給食として提供しています。食を通じ、日野町のよいところを記憶に残してもらい、将来故郷に帰って来てくれればよいと思っています。



【福原】  
日野郡としての将来像をみんなで描きたい！

最近では、防除作業も法人に委託しドローンで行うご時世です。行政側には、より広域の郡単位の視点で全体的な物事を考えていただきたいと考えてい

ます。地域に人がいなくなる時代なのかで、先を見据えた将来像をみんなが考えていかなければいけないと思っています。

【遠藤】  
郡で集まり、行政に声を届ける機会を！

10年後には、町単位では行政が成り立たない時代が来ると予測しています。町により地域性や方針の相違はあるものの、日野郡として取り組むべきことがあるはず。我々ひとりひとりの声は小さいけれど、行政や地域に意見を届ける機会を、これからも設けていただくことを期待します。

【八幡】  
持続可能な日野郡を築くために努力されている皆さんを、日野振興センターも応援します！

お話を伺い、一つは、皆さんが後継者の確保に困っておられる、もう一つは、事業によっては、町の単位を超えてより広域の日野郡としての施策を望んでおられるということがわかりました。将来を見通すことは難しいが、やりたことはたくさんある、そのような皆さんの意見を聞く機会を今後も設け、微力ながら一つ一つお役に立てるよう日野振興センターも頑張っていきたいと思っています。

本日は、ありがとうございました。

## 日野郡の未来へ向けて 日野振興センター 所長 越智 浩明



碧き水面の溪流と緑輝く美しい山並みに生まれ、心優しい人々が暮らす小さくても凛とした街並みや集落。日野郡3町は幾多の喜びや試練が織りなす60年余の歴史を紡いでこられました。

この故郷が未永く輝き続けることを願って、沢山の人が様々な分野で活動しておられます。本日の座談会に参加された3名の皆様の、自然体でありながら将来を見据えた取組は本当に素晴らしいものです。

一方、日本国中で人口減少と高齢化が進展しており、今までどお

りのやり方で地域の元気を守っていくことが難しくなっています。日野郡では、集落を存続させる取組や地域の交通手段を存続させる仕組みづくりなど新しい挑戦が始まっています。

他方で、昨今はSDGsが世界中で注目され、日本の首相もアメリカ大統領も環境政策を最重要政策に掲げました。日野郡の皆様が美しい山並みや溪流を守ってきた取組の尊さをキチンと評価して頂き、地域の活性化につなげる仕組みができないものかと思っています。

日野振興センターは、これからも3町の役場や住民の皆様と一緒に日野郡の未来を拓くチャレンジを続けていきますので、どうぞお力添えをお願いいたします。

# ドローンが配備されました ドローンってすごいんだろ～ん

いろいろな業界で脚光をあびているドローン。宅配サービスによる活用など可能性は無限大。家庭でも趣味として利用する人もおり、身近な存在となりつつあるドローン。日野振興局農林業振興課にも、主に森林情報の収集など林業への活用を目的としてドローンが配備されました。



## そこで、林業におけるドローン活用をちょっとご紹介!

活用  
1

### 伐採前の現地確認

これまで林業で利用されていた写真(飛行機から撮影)(費用がかかるため数年に1回の撮影)



【ドローン撮影】  
(R2.10.26撮影)伐採前

ヒノキと椎茸原木(クヌギ)が混ざって植えてある



【ドローン操縦状況】  
山に入らず、見晴らしの良い場所から操縦。

広い山を何度も歩いたり、崖のような斜面を登ったり、藪をかき分けて進む必要は無い! **労力の軽減!**

活用  
2

### 椎茸原木(クヌギ)のみを伐採した後の現地確認

どれくらい伐ったんだろ? 下から見ても分からないな～



【伐採後の森林内】



空から見れば伐採箇所が一目瞭然! 茶色に見える箇所が伐採部分



【ドローン撮影】  
(R2.11.25撮影)伐採後

ドローンで撮った写真を利用して距離、面積も把握できる

山に入らなくても切り株も見え、何本伐ったかまで分かる



【拡大写真】



日野振興局農林業振興課の他、鳥取県内の森林組合、林業会社では既にドローンの導入、活用が進んでいます。

森林の適正な管理のため、間伐が必要な場所の把握や実施後の確認、山地災害現場の状況確認等、幅広い活用が期待されています。

日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2018 FAX:0859-72-2125

# 日南トマトの現在 ～産地を支える若手生産者～



日南町は、近年安定した収量、販売額を維持する夏秋トマトの県内随一の産地です。平成21年度から農業研修制度を開始し、後継者の育成・定着を図った結果、現在までに16名がトマト農家として新規就農しています。日南トマト青年部はこれらの若者が中心となって平成27年に結成された組織です。

**初代** 青年部長(H27.3.1-H29.2.28)であった岩田真也氏は、長年栽培されてきた'桃太郎'から、高品質多収品種である'りんか409'への品種転換を推進し、生産者の意欲が大きく向上しました。そして、現在は生産部長として産地を牽引しています。

**2代目** 青年部長(H29.3.1-H31.2.28)の佐野健志氏は、経営改善の意識が高く、毎年春先に各自が「定植株数を増やして3L(大玉)抑制」「米ヌカを使った土壌消毒で青枯病防除」などの改善目標を定め、作付け終了後には結果と反省点を共有する取り組みを開始し、低収量で悩んでいた生産者の経営が好転する事例ができてきました。

**3代目** となる現青年部長(H31.3.1-)は平岡竜也氏です。町内で初めての隔離土耕栽培(プランタ栽培)に取り組むなど、夫婦で力を合わせ努力を重ねています。高い技術力をもって現地巡回指導に当たるなど精力的に活動しています。自身も規模拡大を計画中であり、さらなる飛躍が期待されます。

現在、日南トマト生産部は47名で、5.8haの栽培を行っています。うち青年部員は14名にすぎませんが、面積は約5割を占め、技術や生産意欲の向上とともに販売額の6割弱を上げる存在に成長しており、産地の世代交代は着実に進行中です。生産部では、10年、20年後を見据え、「日南トマト産地ビジョン」の策定に取りかかっており、青年部を中心に販売戦略や担い手確保等、具体的な取り組みを提案していく予定です。

青年部会員は一生涯懸命技術を磨いて、次世代を担う存在となってもらいたいと思っています。



平岡青年部長夫妻



青年部による圃場巡回

日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2025 FAX:0859-72-2090

## つぼくらとみあき 坪倉富章さん(日南町)のコシヒカリが最優秀賞! ～日野川源流米コンテスト～



JA日野営農センター 渡辺センター長と最優秀賞 坪倉さん(右) 品種は「コシヒカリ」

「日野川源流米コンテスト(主催:日野郡産米改良協会)」は令和2年で18回目を迎え、旧日野郡で栽培されたお米が145点出品されました。今回は「ひとめぼれ」「コシヒカリ」に加え新たに「きぬむすめ」を対象とし、11点の出品がありました。全体の傾向としては、夏の猛暑の影響で未熟粒が多くなりましたが、坪倉さんの出品米は食味値が非常に高かっただけでなく外観品質が大変良いことが評価されました。

**坪倉さんのコメント** おいしいお米ができたのは土づくりや有機肥料散布のおかげで水田が良くなったから。ただ雑草が多くなり収量が少なかったため、今後は収量を上げていきたい。

※今回のコンテストは、新型コロナ感染防止の対応のため、12月14日にJA日南支所にて最優秀賞(県知事賞)の授与式のみ行いました。

日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090

★ 井上靖文学の世界を守り伝える

野分の会会長 長谷川 千明さん (日野郡日南町神福)

井上靖は、生涯で800を超える優れた作品を世に送り出し、芥川賞、日本芸術院賞、文化勲章など数々の賞を受賞した、日本を代表する文豪です。『風林火山』、『天平の甕』、『敦煌』など、映画やテレビドラマになった作品をご覧になったことのある方も多いことでしょう。

自然豊かな日南町福栄地区の小高い丘の上に、井上靖記念館「野分の館」があります。皆さんは、なぜ、この有名な文豪の記念館が福栄にあるかご存じでしょうか？

実は、靖は、第二次世界大戦末期の昭和20年6月から終戦後の12月まで、福栄にふみ夫人と4人の子どもたちを疎開させ、自身も当地を何度も訪れました。随筆『中国山脈の尾根の村』には、終戦直後に福栄で過ごした半月を、「神さまが下さった休暇であったような気がする」と記しています。

また、福栄を舞台にした小説『通夜の客』では、この地を「天に近い、天体の植民地のような村」と表現、映画化されたことで、福栄の美しい情景や温かな人情が広く全国に知られることとなりました。

昭和60年に完成した総檜造の六角形の記念館を、靖自ら「野分の館」と命名。自筆の原稿など貴重な資料が展示されています。ちなみに、「野分」とは、福栄で秋から冬にかけて吹く北西の風のことで、靖の作品の中にたびたび登場します。



自筆原稿  
などの展示品

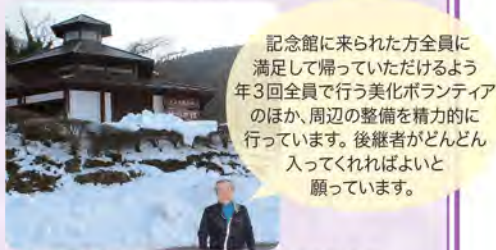
この記念館の運営を担っているのが平成21年に発足した「野分の会」です。福栄の皆さんを中心に20代から90代まで21名の会員からなり、命日の碑前祭、芝桜の植栽、周辺の美化活動、他道府県の団体との交流など幅広い活動を行っています。一家が暮らした「曾根の家」はなくなり生前の靖を知っている人も少なくなりましたが、小説に登場する屋号を各家屋に表示したり、靖や家族とのエピソードを文章に綴るなどして、靖が暮らした福栄を後世に残す取組をしています。昨年は当時生後1か月だった二女の佳子さんが訪ねて来られるなど、今は亡き文豪との縁を大切に育んでいます。

日野振興局 地域振興課  
電話：0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

疎開の下見のために井上先生がお世話役の家に来られた時、辿り着いたのは夜で、「井上です。やっと着きました。」という声で門を開けたそうです。  
戦中の物資不足で砂糖が手に入らない中、用意された塩たもちを、先生は嬉しそうに召し上がった、と聞いています。お腹も空いておられたことでしょう。



初代会長の伊田美和子さん(左)と3代目会長の長谷川千明さん(右) (於伊田初代会長邸)



井上靖記念館周辺の雪かきをする長谷川会長

林業の成長産業化で、日野郡の森林を元気に!  
～高機能木質材料の生産開始～



日野川の森林木材団地(日南町下石見)

県内最大級の木材集積基地である「日野川の森林木材団地」に、高機能の木質材料を製造する工場が令和2年11月に新設され、日野郡の林業の更なる活性化が期待されています。



LVL用単板を薬剤含浸装置に投入するところ (令和2年11月2日 新工場起動手)

「日野川の森林木材団地」内に新設された防腐防蟻LVL用単板生産工場(日南大建株式会社)は、単板積層材LVL※(県産スギ/ヒノキが原料)を製造する株式会社オロチと連携して、腐りにくく、シロアリ被害に強い木質材料(防腐・防蟻LVL)の生産を開始します。生産される防腐・防蟻LVLは、住宅の土台など、シロアリ被害に遭いやすい部材への使用が期待されており、これから全国各地へ出荷されることになります。

この工場が稼働することで、LVLの利用拡大により地元の木材の流通が活性化したり、雇用創出(関係企業含めて約10名雇用)につながるなど、日野郡の林業が更に発展することになります。



LVLの単板に薬剤注入で防腐・防蟻処理を施し、積層接着、裁断、表面仕上げ等の加工をした高機能木質材料。住宅の土台等に利用することで、住宅の長寿命化に寄与すると期待されている。

※LVL(Laminated Veneer Lumber:単板積層材)  
丸太をかつら剥きした厚さ2~4mmの単板を積層接着した木質材料。含水率の低い完全乾燥材で、高い耐震性能、耐久性を持ち、柱・梁・土台等の主要構造材として使用される。

日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2021 FAX:0859-72-2125

祝 結果発表

日野川フォトコンテスト 2020

主催 日野川の源流と流域を守る会

河川・道路ボランティアの皆さんを応援します!



鳥取県では、県管理の道路、河川、公園の清掃・除草等をしてくださる活動団体(鳥取県土木施設愛護ボランティア)を募集し、支援を行っています。日野地区では、現在、34団体がこの支援を利用しています。皆さんの身近にある環境の美化や維持管理の活動をお考えの場合は、ぜひご応募ください。

募集する  
活動内容

- 道路の清掃、除草又は植栽管理もしくは歩道除雪
- 河川の清掃、除草又は植栽管理
- 公園の整地、清掃、除草又は植栽管理



参画型ボランティア促進事業

自主的な環境美化等(清掃・除草・除雪等)を行う団体に対し、活動の実施に必要な援助を行います。  
【支援条件】  
人数・活動規模は問いません。青年団、老人会、スポーツ同好会等の任意の団体でご応募ください。

【奨励金】  
参加者 100円/人・時間  
草刈機等 100円/台・時間  
(上限10万円/年)

協働型ボランティア促進事業

県とのパートナーシップに基づいて協定を結び、一定区間の維持管理(除草、植栽管理、除雪等)を行う団体の活動を支援します。  
【支援条件】  
青年団、老人会等の任意団体かつ10名以上でご応募ください。  
活動規模:道路 0.5km以上、河川 0.2ha以上、植栽枳 50㎡以上

【交付金】  
河川・道路・公園等 40円/㎡  
植栽枳 500円/㎡、歩道除雪 20円/㎡  
(上限40万円/年、ただし歩道除雪は20万円/年)

スーパーボランティア支援事業

公園、河川敷等を活用した地域づくりや賑わい創出の活動と併せて、適切な維持管理を継続して行う団体の活動を支援します。  
【支援条件】  
活動規模:活用する公共空間の範囲  
※鳥取県土木施設愛護ボランティアに登録している団体で、過去に活動区域において地域づくりや賑わい創出を目的とした活動を行った実績のある団体が対象です。

【交付金】  
河川・道路・公園等 40円/㎡  
植栽枳 500円/㎡ (上限60万円/年)  
【簡易施設設置交付金】  
施設設置の原材料費等の額  
(1団体につき50万円まで)

※事前にボランティア団体の登録及び協定の締結(参画型ボランティアを除く)が必要です。詳しくは、下記までお問い合わせください。

日野県土木整備局 維持管理課 電話:0859-72-2046 FAX:0859-72-2092

日野川の源流と流域を守る会は、日野川の自然を守り、恵まれた環境を次世代に引き継ぐとともに、源流と流域の自然を守り、日野川を日本一美しい川にすることを目的として平成14年に設立されました。

当会では、この美しい日野川を多くの方々へ親しんでいただくため、例年、日野川フォトコンテストを実施しています。

この度のフォトコンテストから、気軽に参加していただきやすいように、スマホ部門(スマホ、携帯電話等での撮影)を新設しました。

一般部門、スマホ部門共に多くの応募をいただき、厳正な審査の結果、選ばれた各部門のグランプリ作品を御紹介します。是非ご覧ください。

※その他の入賞作品は、当会のHP  
<https://www.pref.tottori.lg.jp/64680.htm>  
もしくはQRコードからご覧ください。



日野川の源流と流域を守る会では「会員大募集中」です。お申し込み方法や会費などについては、下記問い合わせ先までお願いします。

日野川の源流と流域を守る会事務局(日野振興センター日野振興局内) 電話:0859-72-2081 FAX:0859-72-2072



「静かな夜」  
小島 憲二さん



「深山溪流瞬の光芒」  
月本 勝稔さん



# 身近になってきている 「クマ」のはなし

日野郡鳥獣被害対策協議会  
実施隊チーフ 木下 卓也



## あなたの近くにクマの痕跡!?

2020年、日本各地で話題になった動物、それは「クマ(ツキノワグマ)」。10月ごろに発生したショッピングセンターに入りこんでしまい、「たてこもり」と表現された事故については記憶に新しいのではないのでしょうか。他にも人の生活圏でクマと遭遇する事故が頻発しました。日野郡では一部の地域で以前から目撃があり、注意喚起されていましたが、多くの場所ではあまり見る事のない「私たちの生活とは関係のない動物」のように感じていないでしょうか?たしかにイノシシやタヌキと違って、痕跡も姿も見ることには少ないように思います。しかし近年、目撃される件数もイノシシの罠に誤ってかかる件数も増えています。じつはクマの痕跡を見過ごしているだけかもしれません。今回は意外と知らないクマの痕跡「クマ棚」についてお話しします。

## 冬になると見える、クマが木の実を食べたあと

「クマ棚」と聞いてピン!とくる人はどのくらいおられるでしょう?クマ棚を語るには、まずクマが何を食べているのかを知っておく必要があります。クマの食べ物と言えば「サク!」「ハチミツ!」と思う方がたくさんいるでしょう。もちろん魚もハチミツも食べます。弱ったシカや死骸など動物質の食べ物も喜んで食べます。しかしこれら動物質の食べ物にいつも出会えるわけではありません。最もよく食べているのは、ドングリ類やブナ、クリ、クルミ、ハシバミといった堅果類です。大きな体の個体でも器用に木に登り、樹上で枝先の実を食べるために、枝を引き寄せ折ってしまいます(図1)。



嘘のような話ですが、実を食べたあと、その枝を自分のお尻の下に敷くため、枝と残った葉が積み重なって鳥の巣のようになります。夏の終わり頃だと周りの葉がまだ茂っているので分かりにくいですが、冬になると周りの葉が落ち、鳥の巣状に積み重なった枝や葉がよくわかるようになります。この枝葉が積み重なったものを「クマ棚」と呼びます(図2)。



## 庭の木に「クマ棚」はありませんか?

クマが多い地域では民家横のクリの木や高速道路わきのクヌギの木などでも目撃されます。日野郡ではあまり目撃したと聞きませんが、「そういえば、うちのクリの木に鳥の巣のようなものがあつたなあ」と思い当たることはないでしょうか?

もう耕作していない昔の農地ぎわ、山ぎわの農地や民家横などにたくさん植えてあるカキやクリは、クマの大好物です。

今後備えて徐々にでも、集落にクマを呼び寄せないよう対策を講じていく必要があるかもしれません。

日野郡鳥獣被害対策協議会  
電話:0859-72-1399



### 表紙写真

タイトル:桜満開の明地峠公園

撮影者:日野町 松本 利秋

撮影者コメント:ここは標高620m、日野町地内・国道180号に隣接する明地峠展望公園。桜が植栽されており、一か月遅れで霊峰大山を仰ぎ、花見を楽しむことができます。コロナ禍の中、自然に親しみ、きれいな空気を吸って気分転換してみても如何でしょうか。ここは、秋期に発生する雲海で有名です。私は、うんかい……転じて運が開ける「開運スポット」と呼んでいます。